(3) 東シナ海から日本海（対馬海峡）への流入

最後に、計算開始時に東シナ海、黄海沿岸にあるゴミだけを抽出して漂流漂着状況を時系列で追跡し、日本海に流入するものがどの程度あるかについて検討した。

図- 2.42 に国別のゴミの初期位置を示す。また、1 年後、2 年後、3 年後の漂流・漂着分布を図- 2.43 に示す。

空中断面積比が大きなゴミほどそれぞれ自国の海岸線に漂着しやすくなっている。逆に、水中断面積比が大きなゴミは遠くへ運ばれやすい様相が確認された。

漂流・漂着しているゴミのうち、図- 2.42 の黄色枠で示した領域（対馬海峡）に到達したゴミの国別割合を表- 2.19 に、国別投入数に対する対馬海峡への到達割合を表- 2.20 に示す。

対馬海峡に到達する空中：水中比＝100:1 のゴミは、全てが日本を起源とするものとされた。

一方、ライターを想定した空中：水中＝0:1、1:2、1:1 のゴミの到達割合をみると、韓国、中国、台湾からのものが多く、投入数に対する比率でみると、韓国起源のものの半数以上は対馬海峡に到達するとされた。

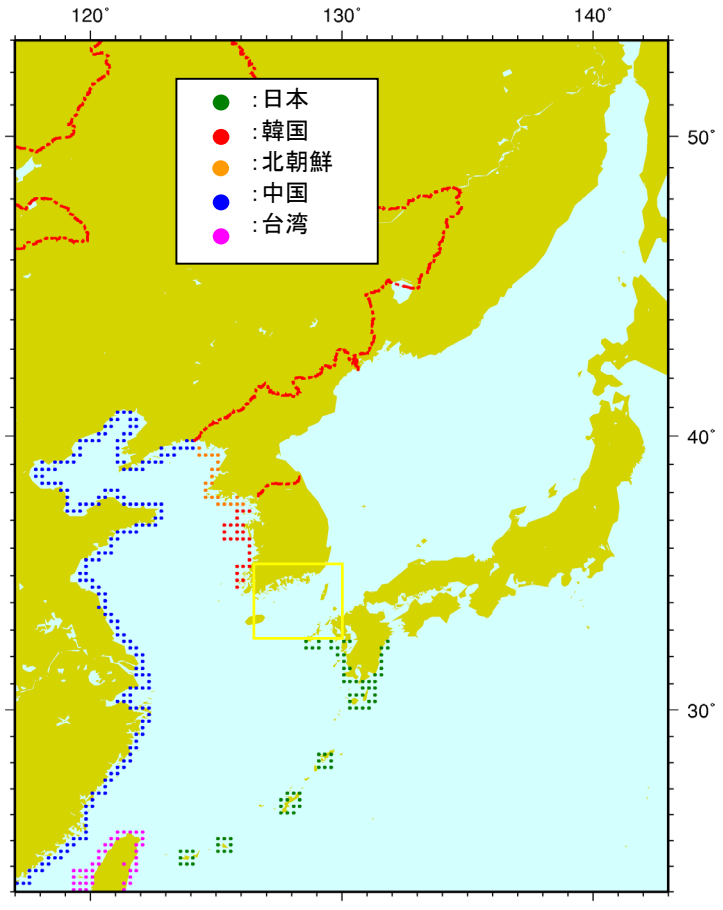

図- 2.42　国別のゴミの初期位置

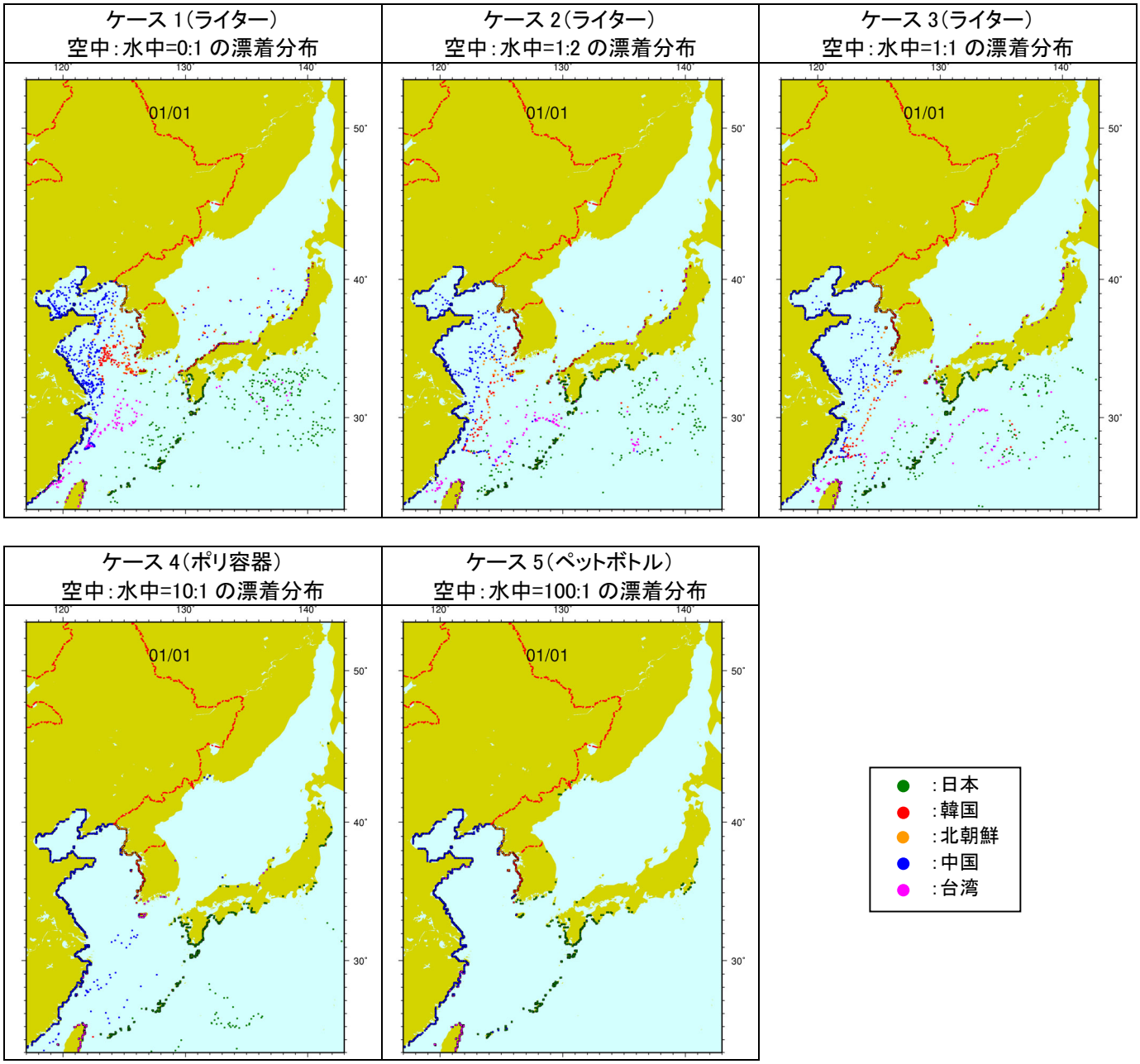

図- 2.43(1) 計算開始から 1 年後の漂流・漂着分布

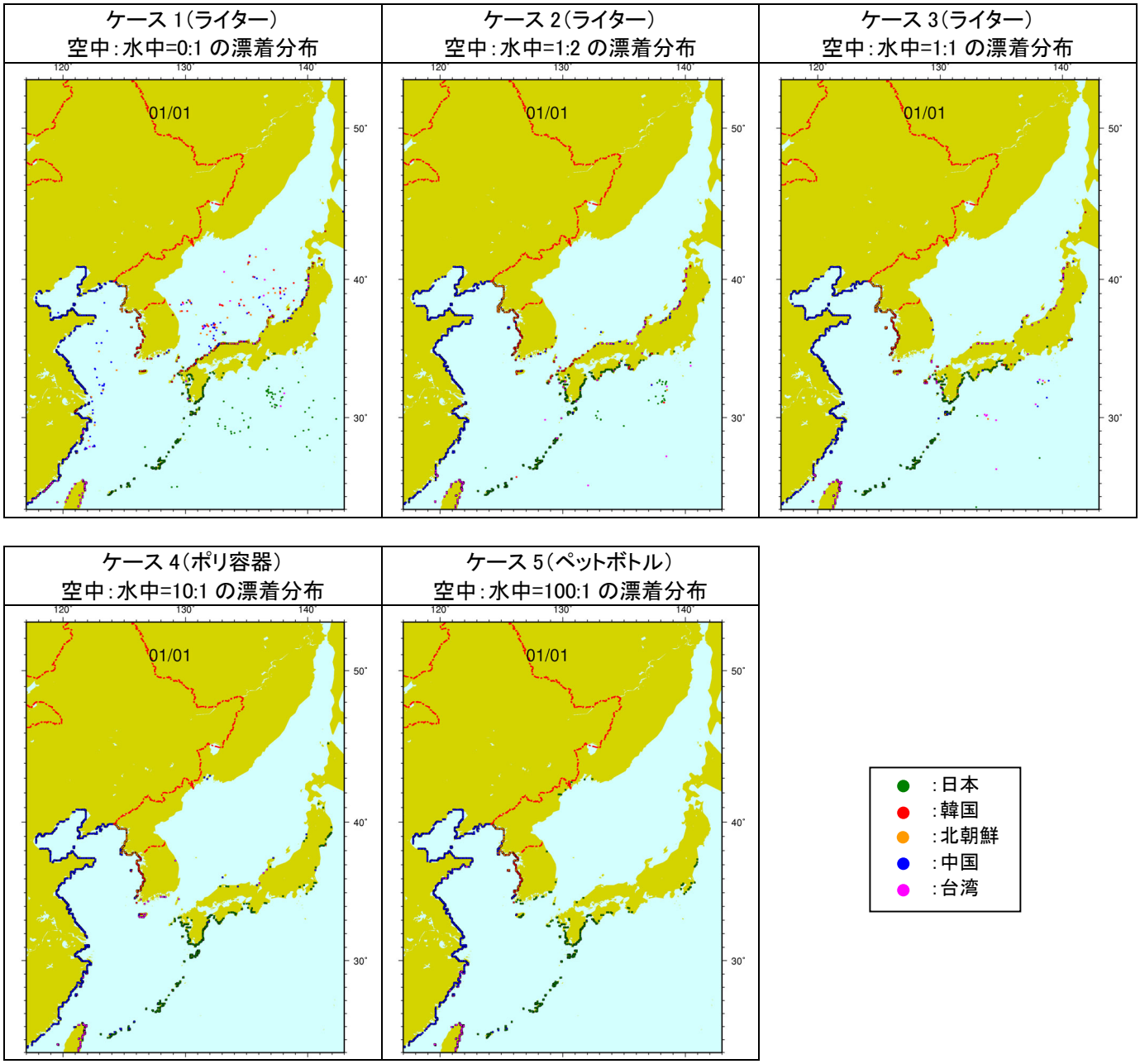

図- 2.43(2) 計算開始から 2 年後の漂流・漂着分布

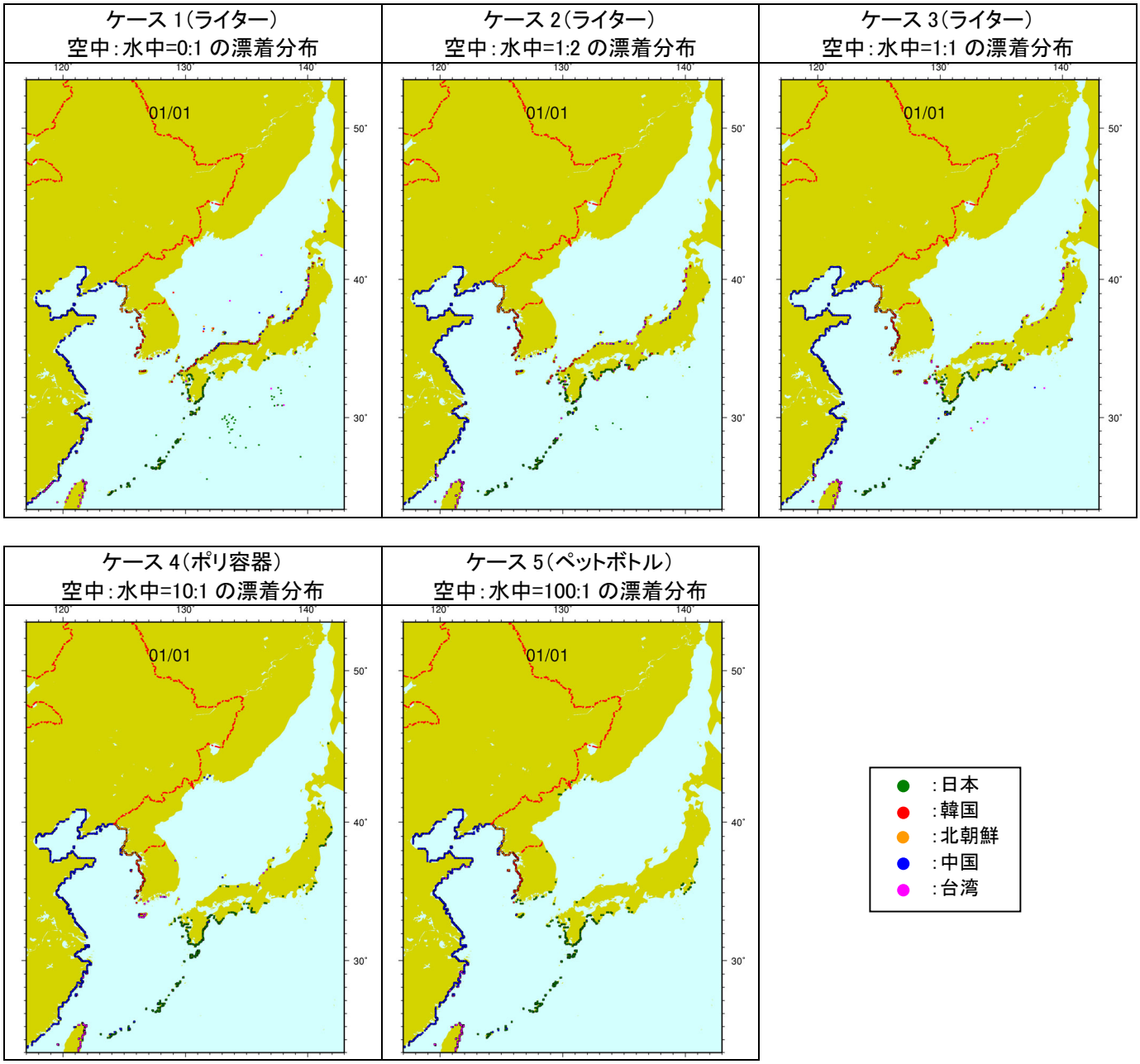

図- 2.43(3) 計算開始から 3 年後の漂流・漂着分布

表- 2.19 対馬海峡到達ゴミの国別割合

3年間で対馬海峡付近に到達した粒子総数（個）

沈下率	日本	韓国	北朝鮮	中国	台湾	計
0:1	29	173	7	109	58	376
1:2	7	70	2	33	57	169
1:1	8	57	0	12	54	131
10:1	24	1	4	9	23	61
100:1	45	0	0	0	0	45

割合（%）

沈下率	日本	韓国	北朝鮮	中国	台湾	計
0:1	7.7	46.0	1.9	29.0	15.4	100.0
1:2	4.1	41.4	1.2	19.5	33.7	100.0
1:1	6.1	43.5	0.0	9.2	41.2	100.0
10:1	39.3	1.6	6.6	14.8	37.7	100.0
100:1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

表- 2.20 国別投入数に対する対馬海峡到達割合

全投入数（個）

	日本	韓国	北朝鮮	中国	台湾	計
投入数/月	80	26	21	200	41	368
全投入数	960	312	252	2400	492	4416

投入数に対する到達割合（%）

沈下率	日本	韓国	北朝鮮	中国	台湾	計
0:1	3.0	55.4	2.8	4.5	11.8	8.5
1:2	0.7	22.4	0.8	1.4	11.6	3.8
1:1	0.8	18.3	0.0	0.5	11.0	3.0
10:1	2.5	0.3	1.6	0.4	4.7	1.4
100:1	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0